

読書のすゝめ

その2

H 30 4 / 11

ちよっと立ち止まって・・・

春は何ごとにつけ「忙しい」ですね。文字の成り立ちから言えば、「ト」(のっしんべん)は「心」の意味。「亡」は「なくす・ない・死ぬ」の意味です。息苦しい日常の中で、誰もが自分のことで手一杯になり、人を思いやる心を失ってしまう。心を失った人間は、他者の痛みを感じなくなる。そうすると、嘘をつき、人を傷つけ、弱い者を踏み台にしても、なにも感じなくなる。世界には、そういう人たちがすいぶんと多くなってしまったように思います。が、ゆっくり立ち止まり春風に揺れる花を愛でる心豊かな時間をもちたいですね。



新任の先生紹介②

小原沙織先生(3年1組副担任・地歴公民)

『DIVE!!』森絵都 (ポプラ社)

この作品は、主人公達が通っていたダイビングクラブを存続させるために、オリンピックを目指す物語です。飛び込み競技を舞台にして、知季・要一・飛沫といった性格もプレーも違う3人が、飛び込みへの熱い気持ちを持ち、ライバルと衝突しながら目標に向かって成長していく姿に感動したのを覚えています。勉強・部活動など、楽しいときだけでなく、うまくいかないこともあります。そんな時にいったん立ち止まって、自分のやりたいこと・目標を考え直す機会になると思います。この本を読んで、一生懸命頑張ろう、新たに挑戦してみようと思えるものを是非探してみてください。

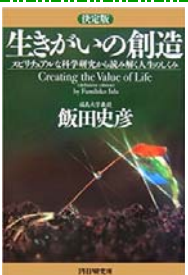


第52回小学館児童出版文化賞受賞作。2003年にNHK・FMの「青春アドベンチャー」でラジオドラマ化、さらに2008年熊澤尚人監督で映画化された作品。

池田健一先生(3年2組副担任・英語)

『生きがいの創造』飯田史彦 (PHP研究所)

実は、人は何回でも生まれ変わるの……この本は多くの科学者によって研究され、驚くべき報告がなされている「生まれ変わり科学」の研究成果をわかりやすく整理し、「人生のしくみ」について新しい科学の観点から読み解いてくれています。生まれ変わりを、単なるスピリチュアルなテーマとしてではなく、人はなぜ生きるのか？人はなぜ学び続けるのか？少しだけ理解できた気がしました。同時に人生を生きていく希望がわいてくる一冊です。



発売以来16年、我が国にスピリチュアル・ブームを呼び、200万部のベストセラーシリーズとなった本。「死後の生命や生まれ変わりを認めると、私たちの生き方はどう変わっていくのか」という命題に迫る、画期的な科学的スピリチュアル人生論になっている。

大島真実先生(2年1組副担任・商業情報)

『ラプラスの魔女』東野圭吾 (KADOKAWA)

私がこの本を読んだきっかけは、映画化されることを知ったからです。YouTubeで配信された映画の一部を見て、とても興味を持ち本の購入をしました。本の厚さや文字の多さに圧倒されて、本を読むのが嫌になってしまいう人もいると思いますが、この本は、とても読みやすく、面白かったです。まずは、自分の興味のあることとを見つけ、それに関連する本を読むことから始めてほしいと思います。



作家デビュー30周年記念作品で、著者は「これまでの私の小説をぶっ壊してみたかった。そしたらこんな作品ができました。」とコメントしている。映画化され、5月公開予定となっている。